

こすもスマイル 68号

発行：小林市立病院 地域医療連携室 令和6年6月

～認定看護師のあいさつ～



色とりどりのあじさいが綺麗に花を咲かせ、木々の緑も雨に打たれて色濃くなりました。

今回はがん化学療法について紹介します。がん化学療法はあまり聞き慣れない言葉ですが、一般的には「抗がん剤治療」と言われています。当院は地域医療支援病院として、かかりつけ医から患者さんの紹介を受け、がんの検査・治療（手術・化学療法）を行っています。2023年度は、約500件のがん化学療法を実施しました。

「抗がん剤治療」は、嘔気などきつい副作用のイメージがあり、入院して治療すると思っている方も多いと思います。しかし最近、薬の副作用を軽減する方法も増え、自宅で普段通りの生活を送りながら、外来で治療を受ける事ができる対策が進んでいます。治療を受けながら、仕事や家事など普段通りの生活を送るためには、毎日熱や血圧を測って体調を確認する、皮膚の乾燥予防のスキンケアを行うなど、患者さん自身が自分をケアすること（セルフケア）が重要となってきます。

私は、2020年にがん化学療法看護認定看護師の資格を取得し、現在は外来で勤務しています。認定看護師の役割として、がん化学療法を安全に実施すること、副作用症状の確認とケア、患者さんのセルフケア能力を高める援助を行うことなどがあります。様々な副作用、病気や治療に対する思いや不安、治療費などに関する相談に対し、医師・薬剤師・栄養士・メディカルソーシャルワーカー・医事課・リハビリ担当など、多職種と連携をとりながら対応しています。入院・外来問わず治療を受けられる患者さんや家族の方からの質問や相談等の対応を行っています。遠慮なくお問い合わせください。

梅雨明けと共に暑い夏がやってきます。エアコンなどを利用し、水分補給を行いながら夏を乗り越えていきましょう。

小林市立病院 がん化学療法看護認定看護師 温水 めぐみ

【理念】

「安心、安全で信頼される病院を目指します」

【基本方針】

- ◎ 西諸の中核病院として、地域の医療機関と連携し、高度な医療を提供します
- ◎ 職員一丸となって、迅速な対応とチーム医療で、安全な医療を提供します
- ◎ 誠実かつ真摯（しんし）な姿勢で日々研鑽（けんさん）に努め、信頼される質の高い医療を提供します
- ◎ 自治体病院として、平等で心が通い合い、安心できる快適な療養環境を提供します
- ◎ 患者様と家族の満足を追求し、プライバシーの保護をはじめ患者様の権利を尊重します



新規採用者をご紹介します



救急科・総合診療科 医師

いわもと かずき
岩本 和樹

4月から救急科で勤務することになりました岩本和樹と申します。宮崎市出身です。地元の皆さんに安心してもらえるよう精一杯がんばります。よろしくお願いいたします。

消化器外科・腫瘍外科 医師

よしまつ なりとし
吉松 成俊

4月から着任しました吉松と申します。出身は都城で、宮崎県の医療に貢献できるように頑張ります。よろしくお願いいたします。

整形外科 医師

とだ まさし
戸田 雅

4月から常勤整形外科医として着任しました戸田と申します。清武町出身で趣味は旅行、マラソンで、ウイスキーにハマっています。西諸地域の医療に貢献できるよう尽力いたします。

糖尿病・内分泌内科 医師

こばやし りょう
小林 亮

4月から糖尿病・内分泌内科を担当させていただきます小林亮と申します。地域の皆様の力になれる様、精一杯頑張らせてまいりますのでよろしくお願いいたします。

看護師

しんます たいし
新增 大志

4月から小林市立病院で勤務することになりました。地域の皆様に安心安全な医療を提供できる様に日々努力していきます。よろしくお願いいたします。

看護師

おうりょうじ みずき
押領司 瑞姫

地元で貢献できる看護師になりたいと思い、生まれ育った小林市に帰ってきました。人に頼られ、笑顔で寄り添える看護師を目指して日々努力していけるように精一杯頑張ります。よろしくお願いいたします。

看護師

くろさわつ あきひろ
黒澤津 昭弘

4月から小林市立病院の職員として勤務させて頂く事になりました。病院を利用される患者さんに、安心安全な医療を提供できるよう頑張ります。よろしくお願いいたします。

看護師

しんむら れお
新村 玲弦

4月から5階病棟に配属になりました。看護部の理念である、優しい心と笑顔で質の高い看護を安全に提供できる看護師を目指していきます。よろしくお願いいたします。

看護師

かとう あやか
加藤 彩楓

今年度から小林市立病院に入職させていただきました。まだまだ技術や知識面では未熟ですが、西諸地域の医療に貢献していきたいよう頑張つて参ります。よろしくお願いいたします。

看護師

むらた みか
村田 美佳

「目配り気配り心配り」をモットーに、患者さんやご家族に寄り添った看護が提供出来るように日々自己研鑽に努めていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

看護師

いわみち かずや
岩道 一也

一度退職しましたが再度、小林市立病院で働かせていただくこととなりました。西諸地域の医療に貢献できるよう精一杯頑張りたいと思っています。よろしくお願いいたします。

看護師

かとう ひろと
嘉藤 啓人

今年度から入職させて頂きました。様々な知識やスキルを学び、患者さんに寄りそっていきたくです。よろしくお願いいたします。

薬剤師

はるまつ あやか
春松 彩加

鹿児島市出身で、旅行と温泉が好きです。小林市は初めてです。豊かな自然と人の温かさに触れ、毎日楽しく過ごしています。安心してお薬を使って頂けるよう、日々精進していきたいと思っています。

栄養士

いずみ りな
出水 里奈

大学卒業後、宮崎市内で勤めておりましたが、地元である小林市に戻り小林市立病院で勤務することとなりました。食を通して地域の皆様のお役に立てるよう精一杯頑張ります。よろしくお願いいたします。

事務員

にしのはら すみれ
西之原 純麗

4月から小林市立病院の職員として勤務させて頂く事になりました。精一杯仕事に取り組み、地域の皆様から頼られるような人を目指していきます。どうぞよろしくお願いいたします。



西諸地域の医療機関を対象とした『新人看護師教育プログラム』が始まりました！

令和6年度は8名の新規採用看護師が当院看護部の新しい仲間として入職しました。そのうち2名は3月に看護師国家試験に合格した新人看護師で、毎日、集合研修や先輩看護師と共に看護業務に奮闘しています。今年の『新人看護師研修プログラム』は7月まで定期的開催しており、西諸地域の医療機関に就職した新人看護師8名も加わり、総勢16名が受講しています。

『新人看護師研修プログラム』では看護に必要な知識や技術、看護ケアの方法や急変時対応、*BLS研修や**SBAR研修、医療機器の取扱いなど様々な分野の講義を、院内の認定看護師や師長、副師長、主任看護師を中心に各委員会メンバーやコメディカルスタッフの協力を得て実施しています。

研修終了後は各自が自分の配属部署で先輩看護師達の指導を受け、患者さんに看護サービスを提供することになります。この研修で学んだことを活かして、それぞれの看護の現場で活躍してくれることを願っています。

*BLS : Basic Life Support
心肺停止や呼吸停止に対する一次救命処置

**SBAR : Situation Background Assessment Recommendation
患者安全のためのコミュニケーションツール



看護部教育委員会委員長 森川 裕子

消化器外科紹介

当院消化器外科・腫瘍外科は、令和6年4月現在、坪内事業管理者、徳田院長、島名外科科長、泊に加え、吉松医師が加わり、5人体制となりました。また鹿児島大学、宮崎大学、県立宮崎病院などから多くの研修医の先生が外科研修に来ています。

令和5年では消化器疾患で約200件の手術がありました。うち腹腔鏡手術が90例程度あり、悪性腫瘍手術も第一選択が腹腔鏡となる症例も増えております。

手術以外の症例としては、膵炎、胆嚢炎、胆管炎、憩室炎などの炎症性疾患や進行癌に対する化学療法も行っております。また現在週1日、消化器内科の先生にご協力いただき、総胆管結石に対しての碎石術や閉塞性黄疸へのステント留置にも取り組んでおります。

さらに宮崎大学救急科から2名派遣いただけたことにより、外傷や肺炎などこれまで以上に取り組んでいける体制になっております。

しかしながら医療圏に比して常勤医が少ない状況に変わりはなく、地域の皆様や医師会の先生方に大変なご迷惑をお掛けしていることかと思っております。当院、当科で可能な限り貢献してまいりたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。

消化器外科・腫瘍外科医長 泊 賢一郎

4階病棟紹介

令和6年3月1日をもちまして回復期リハビリ病棟は閉鎖され、地域包括ケア病棟が47床に増床されました。

地域包括ケア病棟は、急性期治療が終了した後、自宅や施設等への退院を目指しリハビリをされる方、在宅療養中や介護保険施設等に入所中で症状が不安定になり一時的に入院が必要になった方、在宅療養中に家族（介護者）の休養（レスパイト）のための一時的入院、その他、疾患に応じて緊急入院が必要になった方を対象とした病棟です。医師や看護師、介護福祉士、リハビリスタッフ、栄養士が連携・協力し、患者さんやご家族の意向を伺いながら、在宅復帰へ向けた相談や準備等を行っています。また、令和6年3月から新設された訪問看護科と連携を図り、患者さんが住み慣れた自宅で訪問診療や看護を受けられるよう、退院支援を実施しています。入院中は人工肛門などの医療的ケアが必要な患者さんや家族への指導や内服管理指導など在宅復帰に向けた支援、看護も提供しています。

これからも、笑顔を絶やさず、明るく、何でも相談できる雰囲気づくりに努め、患者さんが「その人らしく過ごすことができる」よう多職種で協働し支援していきます。

地域包括ケア病棟師長 森川 裕子

放射線室紹介

放射線室は4名の診療放射線技師が従事しており、各診療科と密に連携を取りつつ、診断・治療に用いる画像の提供や、各種放射線機器等の保守管理および放射線被ばく防止に関する業務を行っています。

また、近年進歩し続ける技術や多様化する専門性に対応した医療を提供できるよう日々研鑽し、各種専門認定技師の育成にも力を入れています。

～認定資格～

- ・超音波検査士（検診領域・腹部領域） 4名
- ・検診マンモグラフィー撮影認定技師 3名
- ・X線 CT 認定技師 2名
- ・第一種放射線取扱主任者 1名
- ・救急撮影認定技師 1名
- ・ICLS 認定インストラクター 1名
- ・臨床実習指導教員 1名
- ・災害支援認定診療放射線技師 1名

～MRIを受ける前に～

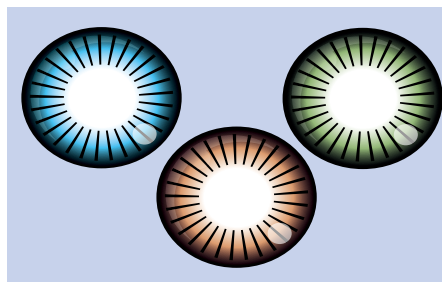
MRIは、非常に強力な磁石を用いて検査を行うため、検査室内に金属を持ち込むことができません。MRI装置の近くに金属類を近づけてしまうと、装置の強い磁力によって金属がひきつけられ、装置への吸着や、衝撃による装置の破損、また患者さんが怪我をしてしまう恐れがあります。そのため、検査の前に問診票や口頭確認などにより入念な金属チェックを行います。

今回は、普段見落とされがちなMRIを行う上で注意すべき金属の中から、いくつかご紹介します。

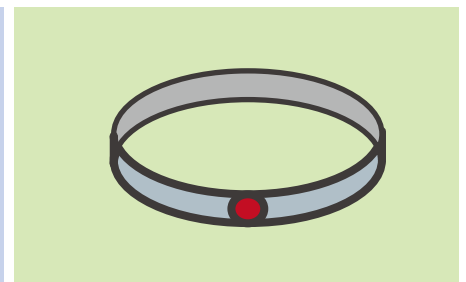
①マグネットネイル



②カラーコンタクトレンズ



③指輪



マグネットネイルとカラーコンタクトレンズに関しては、いずれも色の部分などに磁性体を使用している可能性があり、その部分が発熱し火傷をしたり、変色したりする恐れがあります。

検査前に容易に取り外すことができる場合は問題ないですが、接着されている場合や保存液がない場合、使い捨ての場合などは患者さんへ負担をおかけすることがありますので、可能な限り来院前に外して頂くようお願いいたします。（非磁性体のものもございしますが判断が難しいため、皆さまにお願いしております。）

また、指輪に関しても、外すのに難渋するケースもありますので出来るだけ来院前に外して頂けると助かります。

放射線技師 川野 真吾

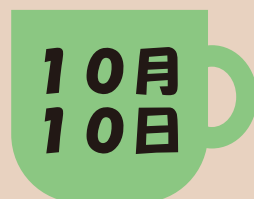


おじゃったもんせ カフェ

おじゃったもんせカフェは、だれでもふらっと立ち寄って、お茶を飲みながら本を読んだり、だれかに話を聞いてもらったりできる場所です。

がんで告知を受けた方、入院されている方、通院中の方、そのご家族、友人など無料でどなたでもご利用いただけますので、お気軽にお立ち寄りください。

カフェ開催予定日 第2木曜日
開催時間 13:30 ~ 15:30
場所 2階 小会議室



【お問合せ先】

地域医療連携室 担当：時任

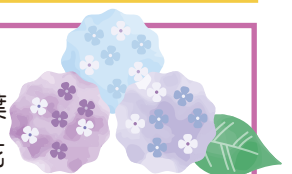
※感染症等の状況により中止・変更になる場合があります。事前にお問合せをお願いします。

☎ 0984-23-8225
月～金 8:30～17:00

スタッフのひとこと

この時期になると紫陽花を見るのがとても楽しみです。紫陽花には、いろいろな花言葉があります。「移り気」「浮気」「無常」…。それともう一つ、「辛抱強さ」です。紫陽花の花期がとても長いことからきているそうです。梅雨の時期になり、蒸し暑い日々も続いています。きっとそれぞれ辛抱しなくてはいけないことが多々あると思いますが、紫陽花の花のように、自分に合った色の花を咲かせたいですね。

医師事務作業補助者 荒木 涼



連絡先

小林市立病院 地域医療連携室

TEL 0984-23-8225 (直通)

FAX 0984-23-8226

Mail k_hosp4@city.kobayashi.lg.jp